

三和建設株式会社 DX計画2023

三和建設株式会社
2023年9月制定



企業を取り巻く環境は、新型コロナウイルスの影響による需要の不均衡、地政学リスクの拡大、気候変動など、これまでの経験値を超え、益々複雑さや不透明さを増しています。

なかでも昨今のデジタル技術の進展は目覚しく、建設業界においても、BIM（Building Information Modeling）、建設機械の自動化、ドローンによる測量などによって、大きな変革がもたらされています。

そして、お客様や協力会社とのコミュニケーションの在り方も、クラウドサービスやXR技術（VR・AR・MR）などによって大きく変化していくと考えられています。

現在、熊本県内では半導体受託製造大手企業の進出が呼び水となり、半導体関連企業の設備投資が加速しています。一方で、過去の自然災害からの復興が進む中で、建設業界では建設技能者の高齢化や労働力不足が深刻化しており、時間外労働の法規制など「建設業における2024年問題」の解決に向けた様々な改善のためのアクションも求められています。

このような課題を解決するためにデジタル技術を活用し、省人化・生産性向上を起点とした変革を実践し、競争力を高めることが急務であると認識しています。

三和建設株式会社は、「ものづくりひとをつくる」を経営理念に掲げ、その実現に向けた成長戦略の一環としてDX推進に継続的に取り組んでいます。今後もDXの推進状況につきましては、ホームページなどを通じ、随時発信してまいります。私たちは建築のプロフェッショナルとして、積極的に新しいデジタル技術・知識を取り入れることでお客様への価値提供につなげられるよう誠心誠意取り組んでまいりますので、今後ともよろしくごお願い申し上げます。

DXビジョン

デジタル技術を活用し、更なる業務効率化に取り組むとともに、お客様へ価値を提供し続けることで、お客様・社員の満足度向上と持続可能な社会の実現を目指します。

お客様や当社自身の持続的な成長を実現することで、地域社会に活力を還元できる好循環サイクルの実現

実現の方向性

業務のデジタル化とデータ活用

- 一連の業務をデジタル化し、効率化することで、働きやすい環境を社員に提供します。
- データを分析・活用することでお客様への提供価値向上や当社の収益改善につなげます。



デジタル技術・新たな建築技術の導入・活用

- デジタル技術や新たな建築技術の積極的な導入・活用によって、お客様への提供価値を高めて、満足度向上につなげます。
- 新たな仕事にチャレンジでき、成長につながる職場環境を提供することで、社員の満足度向上につなげます。

DX戦略

デジタルツールの導入・活用

工事原価のリアルタイム把握

蓄積したデータの分析・活用

DX推進体制の構築

組織

デジタル関連知識・技術の習得支援

人材

原価管理システム・BIMツール・ドローン等のデジタル技術
利用環境の整備

IT
環境

データ蓄積・分析環境の整備

三和建設株式会社は「ものづくりひとをつくる」を経営理念に掲げ、デジタル技術を活用し、更なる業務効率化に取り組むとともに、お客様へ価値を提供し続けることで、お客様・社員の満足度向上と持続可能な社会の実現を目指します。

～外部環境の急速な変化～

2024年問題
時間外労働の法規制

技術革新

大手企業の進出

人口減少
少子高齢化

自然災害

変化への適応性を高めお客様へ価値を提供し続けるために

デジタル技術の活用

デジタル技術を活用し、更なる業務効率化に取り組むことで
お客様・社員満足度向上と持続可能な社会を実現

三和建設株式会社は、お客様や当社自身の持続的な成長を実現することで、地域社会に活力を還元できる好循環サイクルの実現を目指します。

①業務のデジタル化とデータ活用

- 一連の業務をデジタル化し、効率化することで、働きやすい環境を社員に提供します。
- データを分析・活用することでお客様への提供価値向上や当社の収益改善につなげます。

②デジタル技術・新たな建築技術の導入・活用

- デジタル技術や新たな建築技術の積極的な導入・活用によって、お客様への提供価値を高めて、満足度向上につなげます。
- 新たな仕事にチャレンジでき、成長につながる職場環境を提供することで、社員の満足度向上につなげます。

3つの戦略を実行し、ビジョンの実現を目指します。

戦略1 デジタルツールの導入・活用

- ・B I Mの導入により、設計・施工情報の一元管理を行うと共に、3 Dモデルを用いた打ち合わせの実施など顧客価値に繋がるB I Mの活用を行います。
- ・建設現場でドローンを導入し、高所の工事写真撮影等の業務に活用することで、社員の安全性の確保を行います。また、業務時間の短縮を図り、対応できる現場数の増加に繋がります。

紐づくビジョン実現の方向性

①業務のデジタル化とデータ活用

②デジタル技術・新たな建築技術の導入・活用

戦略2 工事原価のリアルタイム把握

- ・現在、一部門でトライアル中の工事原価管理システムを全部門へ拡大します。
- ・工事原価をリアルタイムに把握し、生産性を検証することで収益率向上につなげます。

①業務のデジタル化とデータ活用

戦略3 蓄積したデータの分析・活用

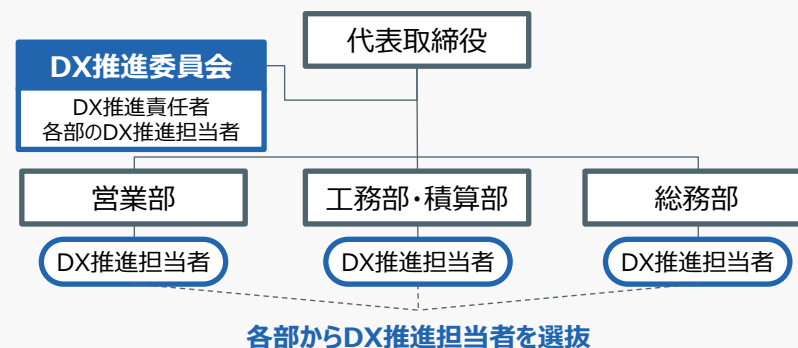
- ・データ利活用に向けて、施工実績データと顧客管理システムのデータを分析します。
- ・顧客別のメンテナンス実績（築年数、実施した工法、故障箇所など）を分析し、顧客が必要とするタイミングで適切にアプローチを行えるメンテナンスサービスの開発を行い顧客満足度の向上に繋がります。

①業務のデジタル化とデータ活用

DXを推進する体制を整備しつつ、教育制度のさらなる充実など人や組織への投資を継続することで、専門人材や若手人材からも選ばれる会社を目指します。

組織 | DX推進体制の構築

- 代表取締役直轄の「DX推進委員会」を新設し、組織を横断して各戦略の実行を推進します。
- 各部からDX推進担当者を選抜し、各戦略の実行体制を構築します。



人材 | デジタル関連知識・技術の習得支援

- BIM・ドローン等のデジタル技術や新たな建築技術習得に向けた研修や資格取得の費用を補助します。
- IT・セキュリティ関連資格の取得を奨励することで、社員のデジタル関連基礎知識の向上を図ります。
- 外部との連携活用しながら、デジタルツールの活用に向けた社内研修や勉強会を定期的を開催します。

戦略の実行に必要なIT環境を整備していきます。

IT | システムインフラ・マニュアル等の整備

- 通信ネットワークを整備し、建設現場からもストレスなく安全に社内ネットワークにアクセスできる環境を実現します。
- 各デジタルツールが自動でファイル連携できるよう、データ連携基盤を整備します。
- 各デジタルツールのマニュアルを再整備し利用浸透を図るとともに、情報セキュリティを確保するために運用ルールの整備を行います。

IT | データ蓄積・分析環境の整備

- 施工実績データと顧客管理システムのデータを蓄積するデータベースを新たに整備するとともに、データ分析に必要なソフトウェアを導入します。

次の推進指標で戦略の推進状況をモニタリングしていきます。

戦略	成果指標
デジタルツールの導入・活用	残業時間の削減割合（2023年度比）
工事原価のリアルタイム把握	工事原価率の削減割合（2023年度比）
蓄積したデータの分析・活用	メンテナンスの年間受注件数